

経験不問!!

— 庄内浜で漁師になろう! —



JF やまがた

🚢 栽培漁業

山形県庄内浜では、水産資源を増やすために卵から魚や貝の子供をつくり海に放流しています。さらに放流効果を高めるために、中間育成という方法で稚魚を少し大きくして放流しています。

栽培漁業は資源管理型漁業と同様、資源を増やすための大切な事業です。山形県ではヒラメ、クルマエビ、アワビ、サケ、サクラマス、トラフグを放流しています。

🚢 資源管理型漁業への取り組み

漁業者は山形県民・国民の皆さんに安心して食べられる美味しい魚を永続的に供給するため、資源を管理しながら魚を獲っています。

資源を増やすために漁業者自らが漁場や資源量をきちんと管理しながら魚を獲ることを「資源管理型漁業」と言います。

山形県の漁業者は魚を増やすために、一生懸命いろんな取り組みをしています。

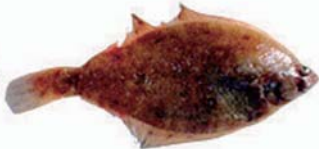
具体的には

- ・獲る魚の大きさを制限しています。
- ・小型魚を獲らないように網の目を大きくしています。
- ・休漁日を設けています。
- ・小型魚は海に逃がしています。
- ・小型魚が多くいる場所では漁をしないようにしています。

大きさを制限している魚



ヒラメ(全長30cm)



マガレイ(全長17cm)



マダイ(全長15cm)



キス(全長12cm)

🚢 環境保全活動の取り組み

私達は豊かな海づくりを目指すため、鶴岡市小波渡海岸、遊佐町女鹿海岸で藻場保全活動を行っています。

庄内浜でも近年、磯焼けの現象が発生し、大型海藻が消滅しています。

アワビなどの貝類やハタハタの産卵場を守るため、地域の皆様と協力しながら、小波渡地区藻場保全活動組織、遊佐町海づくりの会などの団体が活動を行っています。



山形県の漁業紹介

底びき網漁業

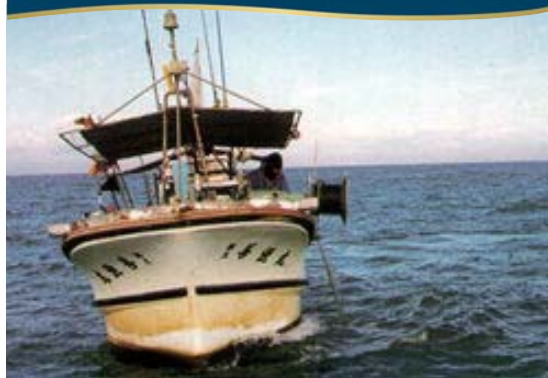


荒手網、袖網、身網、魚捕り部からなる袋状の網を船の進行移動により海の底を引き回して魚を捕る漁業です。

操業はおよそ水深100~500mの所で行い、カレイ類、ヒラメ、タラ類、アンコウ、ホッコクアカエビ(甘エビ)、ズワイガニ等を主体に漁獲しています。

15トン未満の漁船を用いて操業するものを小型底びき網漁業、15トン以上の漁船で操業するものについては沖合い底びき網漁業とそれぞれ定めています。

さし網漁業



かすみ網のような主にナイロンを素材とした網を、狙いとする水産動物の通り道に仕掛け、網に刺させたり、からめたりして漁獲する漁業です。

さし網漁業には色々な種類があり、本県にはアンカー等で網が動かないようにさし網漁具を設置して魚を捕る漁業「固定式さし網漁業」、さし網を海底に接し漁具の一端を重し等で留め、もう一方の曳網を船に取り、網を曳廻したりして魚を網に刺して捕る漁業「こぎさし網漁業」、さし網漁具を固定しないで、海流や風の力を利用して流し、海面の上層や中層にいる魚を捕る漁業「流し網漁業」等があります。

5トン未満の漁船が操業する「さし網漁業」は、主に「固定式さし網漁業」と「こぎさし網漁業」で、カレイ類、ヒラメ、ガザミ(ワタリガニ)等は「固定式さし網漁業」で、キス、アマダイについては「こぎさし網」でそれぞれ漁獲します。

はえなわ漁業



一本の幹なわに一定の間隔で釣りばりのついた多くの枝糸をつけ、海の中層あるいは海底にこの漁具を繰り延べて魚を釣る漁業です。

はえなわには、「浮きはえなわ」、「底はえなわ」、それに両者の中間にあたる「はしごはえなわ」の3種類があります。

はえなわ漁業では対象魚種によって数百メートルから千メートルまでの幹なわを使用するため、漁具を整理し操業をし易くするために幹なわを短く切り、これを針をかけやすく加工した円形の鉢に入れて整理します。この一つの単位を鉢と呼んでいます。

「浮きはえなわ」ではマダイ、メジマグロを、「底はえなわ」ではタイ、トラフグ、アカムツ(ノドグロ)、タラ類を、「はしごはえなわ」では主にタイ、サワラを漁獲の対象にしています。

山形県の漁業紹介

かご漁業



餌をいれたカゴをロープに一定間隔で吊るして海底に沈め、カゴの中の餌を求めて入ってくるカニや貝を捕る漁業です。

本県には、水深800メートルより深いところでベニズワイを、沖合いの水深400メートル～800メートルで深海性のバイガイを捕るものと、ごく沿岸の水深数十メートル付近で沿岸性のバイガイを捕るカゴ漁業があります。

これらの漁業は、対象とする資源や漁場の関係から数隻の漁船しか操業していません。

一本釣り漁業



一本の釣り糸に釣り針をつけて魚を釣る漁業です。

代表的なものとして、メバル一本釣り、ヒラメ一本釣り、タイ一本釣り、ブリ一本釣り、イカ釣り(スルメイカ、ヤリイカ)漁業があります。

一本の釣り糸に一つの釣り針をつけるものは、ヒラメ一本釣りとヤリイカ釣りであり、この他3本から数十本の釣り針をつけているものがあり、針数の多い一本釣りを別名「多鉤釣り(たこうつり)」といいます。

ブリとスルメイカは、主に夜間集魚灯を用いて魚を集めて釣ります。特にスルメイカについては、疑似針をつけてコンピューターを内蔵した自動イカ釣り機という機械を用いて釣りをを行います。

庄内浜水産加工品



定置網漁業



海岸近くの魚の通り道(魚道)に、長い垣網と身網(魚だまり)とでできている網を設置しておき、垣網によって魚を身網に誘導して捕る漁業です。

身網の設置している水深によって区分されており、水深27メートルより深いところのものを大型定置、それより浅いところのものを小型定置としています。

定置網は統単位と呼ばれ、本県には、大型定置が2ヶ統、小型定置は20ヶ統ほどあり、サケ、マス、タイ、イナダ、ブリ、アジ等を捕っています。

このほか、飛島では春先にヤリイカを捕る「ちょこ網」、温海地域の磯場で、アジやタナゴ等を捕る「ふくべ網」と呼ばれている小規模な網も定置の一種です。

採介藻漁業(磯見漁業)



水深10メートル以浅の磯漁場で、船外機をつけた小船を操りながら、箱メガネで海底をのぞき対象とする水産動植物を探して捕る漁業です。

対象となるものは、アワビ、サザエ、イワガキ等の貝類とワカメ、モズク、アラメ等の海藻類です。

また、夏場に潜水してイワガキ等を捕る人もいます。

沿岸イカ釣り漁業



夕方に出港し、夜の海を強い光で照らしてイカを集め、疑似針をイカの群れまで下ろして釣り上げていきます。集魚灯の光は、人工衛星からでも確認できるほどの明るさです。

19トン以下の船で乗組員は1~3人ほどで操業します。最近ではほとんどの船が自動イカ釣り機を備えているため、漁師は主に甲板上で上がったイカをサイズ別に箱詰めし、船倉に納めていく作業を行います。

夜が明けて空が明るくなるとともに、操業が終わります。また、朝から日中にかけて漁を行う「昼イカ釣り」もあります。

また、この漁業の他、200トン未満の大型漁船が行う沖合イカ釣り漁業もあります。沿岸イカ釣り漁業は1日の操業ですが、沖合イカ釣り漁業はおおよそ30日の操業日数となり、操業海域は、日本海、日本海ロシア海域、太平洋と広がります。

沿岸漁業のキャリアアップ

親方漁師に弟子入りし、将来的に独立して自分で生計を立てるか、漁業会社の従業員としてキャリアを積むかが主になる。

将来の独立を目指すなら、免許や資格を取得するだけでなく、漁協の組合員になることが必須。

親方漁師の弟子や漁業会社の従業員となり、漁船の乗組員として従事する

必要な資格を取る

- ・船舶免許
- ・漁業無線
- など

漁協の組合員になる
その地域で漁業に従事した実績（おおむね90日～120日以上）と、定住して漁業を続ける意志が必要



沖合・遠洋漁業のキャリアアップ

実績を積み、幹部職員を目指すか、中・大型船の乗組員となって働くケースが主になる。

資格にチャレンジし、自分のキャリアに磨きをかけよう。

漁業会社の船員として甲板部、機関部で働き、経験を積む

必要な資格を取る

- ・航海士(海技士・航海)
- ・機関士(海技士・機関)

漁船のリーダーを目指す
・漁船の最高責任者漁労長を目指す

■中・大型漁船の乗組員(リーダー職)序列と役割

漁労長	操業・漁獲を指揮する最高責任者。敬意を込めて「船頭」と呼ばれる乗組員のトップリーダー。
船長	船の運航を指揮する監督責任者。キャプテンとして船内の規律を維持する責任者。
機関長	チーフエンジニアとしてエンジンなどの保守・点検を担当する、船の機関の責任者。
通信長	無線などにより他の漁船や陸上との連絡を担当するチーフオペレーター。
一等航海士	甲板部の指揮監督を担当するチーフオフィサー。
一等機関士	機関長を補佐するファーストエンジニア。
操機長	機関部の実務遂行リーダーでナンバンと呼ばれる。
甲板長	甲板部の実務遂行リーダーでボースンと呼ばれる。
冷凍長	冷凍設備の管理・実務を担当する長。
司厨長	コック長として船員の食事を担当する長。



漁師になるまでのステップ



STEP

1

まずは、情報を集めよう

漁師といっても、漁業種類や地域によって働き方や生活スタイルはさまざま。できるかぎり多くの情報を集めて、自分が目指す漁師の姿をイメージしよう。

- ・ホームページ「漁師.jp」(<http://ryoushi.jp>) など

STEP

2

行動を起こそう(参加・体験する)

直接漁師の話を聞いたり、漁業体験などに参加することも、情報収集のひとつ。実際の仕事や生活スタイルなどについて、現場に足を運び、生の声を聞いて、自分に合う漁業を見つけよう。

- ・漁業就業セミナー(座学・体験)に参加
- ・漁業就業支援フェアに参加
- ・漁業体験に参加 など

STEP

3

求人情報を探そう(就職活動)

自分の目ざす漁師がイメージできたら、求人情報を探して、直接アプローチしよう。面接や乗船体験などを経て採用が決まるケースも多い。

- ・ハローワークや「漁師.jp」などで求人情報を検索
- ・直接漁師や漁業会社にアプローチ

また、漁業就業支援フェアでは、採用意向のある漁協や漁業会社が出展するので、直接採用状況などを確認できる。

STEP

4

決定! 漁師へのスタート

経験ゼロからでも大丈夫。 「漁業研修制度」を活用しよう!

漁業就業支援フェアに参加し、フェアに出展している漁協・漁業会社とマッチングが成立すると、一定期間、採用が決まった職場で仕事をしながら基礎的な漁労作業の指導を受ける「漁業研修制度」(国の補助事業)が活用できる。これは、本格就業を前提に、漁業研修生として実際に日々の仕事をしながら経験を積む試用期間のようなもの。詳しい制度の内容は、全国漁業就業者確保育成センターや各都道府県の相談窓口で確認しよう。



山形県新規漁業就業者を募集しています。

国の支援事業

・新規漁業就業者総合支援事業

○青年就業準備給付金事業(45歳未満の方)

漁業への就業に向け必要な知識の習得等を行う若者に対して150万円/年間を支給します。

(但し、給付金を受けた後、漁業就業しなかった場合は給付金を返還しなければなりません。)

○長期研修支援事業(年齢制限なし)

漁業経営体に就業・定着促進する目的として漁業経営体に雇用される研修生の指導者に研修経費を助成します。

山形県の支援事業

・新規漁業就業者総合支援対策事業

○新規独立漁業者支援事業

新規に独立される漁業者に漁船等購入費用を助成します。

○漁業就業準備給付金支援事業(45歳以上の方)

漁業への就業に向け必要な知識の習得等を行う研修者に対して150万円/年間を支給します。

(但し、給付金を受けた後、漁業就業しなかった場合は給付金を返還しなければなりません。)

○漁業就業準備研修生受入体制整備事業

漁業への就業に向け必要な知識の習得等を行う研修者に対して指導した方に謝礼金を支払います。

※実施年度により内容に変更がある場合があります。

そのほかにも、漁業就業支援事業があります。詳細はお問合せください。

**出身は千葉県松戸市
庄内浜で漁師になりました。**



庄内浜

山形県



お気軽にご相談ください
山形県漁業協同組合

〒998-0036

山形県酒田市船場町二丁目2番1号

TEL:0234-24-5611

FAX:0234-22-6455